

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に全員で唱え、業務にあたっている。	朝礼時に理念、スローガンの唱和を行うと共に、玄関、ホールに掲示し共有と実践に繋げている。家族に対してはホームの基本理念、「安心、安全な共同生活」の部分を詳しく説明している。職員の中で仮に理念にそぐわない言動等があった場合には共通の介護感を持つよう個別に話を取る時間を取り、徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティアが来所し、共に歌を唄うなどすることで楽しんでいる。また地区の子供達が立ち寄りたり、地域行事にも参加している。	地域のお祭りには見学に出掛け、地域の人々と交流の場を持っている。地域の子供達が法人の夏祭りに大勢来訪し、花火を共に楽しみ、ハロウィーンの時には子どもたちがホームに立ち寄り利用者を楽しませてくれる。障害者の学園の生徒も数名来訪し利用者とお茶を共にしたり花壇に花を植え楽しんでいる。専門学校の実習生の来訪もあり、利用者で交流している。ハーモニカ、コーラス等のボランティアの来訪も月1回あり、利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や地域包括支援センターにて、介護者の集いや相談会に出席し、理解や啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者にも参加して頂き、生の声も聞いて頂いている。実績、活動報告をもとに、その都度会議内容のテーマを決め意見を頂いている。	家族代表、区長会長、地域代表、民生委員、地域消防団員、あんしん(介護)相談員、市高齢者活動支援課職員、包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。事業報告や活動報告、事故報告等が行われ、意見交換では毎回テーマを決め、熱心な話し合いが持たれ支援の向上に繋がっている。また、セクシオン会議で家族からの意見を伝え、職員のやる気にも繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護高齢者活動支援課の職員、包括、あんしん相談員、民生委員、地域代表の方々に取り組み等々を伝えている。	市の高齢者活動支援課には事故等を報告し相談もしている。地域包括支援センター職員が利用者の紹介や見学等にも来訪している。あんしん(介護)相談員の来訪が月1回あり、利用者との交わりの時間を持ち、終了時、管理者に口頭で報告している。介護認定の更新調査は調査員が来訪しホームにて行い、変更申請を行う際には事前に家族に連絡している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待について法人研修で学んでいる。また身体拘束委員会に職員が出席し、ケア会議にて話し合っている。	身体拘束を必要とする利用者はなく、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠している。帰宅願望の強い利用者がいるが話をしたり、納得するまで外を散歩したりして対応している。転倒防止のため家族と相談の上センサー使用の方がある。特に利用者に対しては言葉で「ちょっと待つて!」という抑制をしないよう心掛けている。職員は年2回、法人の拘束委員会が開催する研修に参加し、意識を高めている。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修に参加し、日常業務の中で虐待とみなされることが起きていないか、ケア会議の中で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回のセクション会議にて、議題として学ぶ機会を設けている。また管理者、職員で話し合い支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時不安のない様説明し、理解、納得を頂いている。ご家族の気持ちも聞き、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会時や、行事への参加時にご意見、ご希望などを聞かせて頂き、反映出来る様ケア会議で話し合っている。	利用者の意見・要望は言葉、表情、また、ジェスチャーを交えながら聞き出し希望を受け止め支援に取り組んでいる。家族の来訪は週1回～月1回位であるが、行事の際には多くの家族が来訪されている。面会時には日々の様子を細かくお知らせすると共に質問事項にもお答えしている。5月に行う感謝の日、9月の敬老祝賀会には三分の二ほどの家族がお見えになり、職員やボランティアの出し物もあり、利用者と共に料理を手づくりし、楽しい1日を過ごしている。-ホーム便り「コスモス通信」も毎月発行され、日々の様子を家族にお知らせしている。また、利用者一人ひとりの様子は担当職員より生活記録として作成され請求書に同封し、家族の元に届けられ喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のセクション会議にて、職員からの意見や提案を皆で検討し、ホーム長会議で発表し反映させる機会を得ている。	月1回、夜勤者を除いた出席全員でセクション会議を開催し支援の向上に繋げている。ホーム長会議の連絡や行事予定の打合せ、ケアカンファレンス等が行われている。また、人事考課制度があり、年2回行われる目標に対して自己評価を行い、管理者による個人面談も行われ、スキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シート、自己評価が年に2回あり、実績や努力を代表者に伝える事が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実績年数に応じ、外部研修に参加してもらい、その内容を皆で共有している。法人研修には全職員が出席出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信地区ネットワークに加入しており、機会を利用し、研修会や取り組みなどの交流がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時より、困っている事、不安など本人の気持ちを聞き、職員間で情報を共有し、安心して頂ける関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時より、ご家族の困り事や不安、ご希望を聞き、ホームで出来る事を伝え、ご家族の協力を頂きながら関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時に本人やご家族の望む事を聞き、話し合い必要なサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員の生活の場であるという意識をもって、共に食事作りなど行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、生活記録などで本人、ご家族、職員と関わりをもって連絡、相談をし、信頼関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人などからの手紙や電話等に協力し、支援している。馴染みの場所への外出の希望があれば、対応している。	年々利用者の高齢化が進み友人、知人の来訪が少なくなっているが、手紙やお届け物のやり取りをされている利用者が数名いる。また、親戚が面会に来られる方も数名おられ、関係が継続するよう支援している。元気な方は希望により管理者と買い物に出掛け外の空気にふれている。利用者同士も仲が良く、職員が中に入り話をしたり、ぬり絵や雑巾作りなどを行い時間を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通し、コミュニケーションを図っている。席替えや入浴順番などの工夫で、楽しく過ごして頂ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話で、その後の様子を聞いたり、またホームへのお立ち寄りの声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の望んでいる事や、気持ちを把握し、本人や職員と検討し実現出来る様、努めている。	言葉で意思表示の出来る利用者は半数位であるが、利用者の好みや性格を把握し、二者択一の提案も含め意向を汲み取り支援に繋げている。遠慮がちな利用者に対してはその場の雰囲気を読み声掛けをし、個人的に話をし意向を受け止めるようにしている。日々の生活の中で目立った言動については個人記録に残し、申し送りで情報を共有し支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に情報を収集し、職員全員に説明し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、朝礼、終礼にて職員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意見を聞き、本人の現状に合った介護計画を作成している。課題はケア会議で検討している。	職員は1~2名の利用者を担当し、生活記録の作成や持ち物の把握、消耗品の確認等をしている。モニタリングはケアマネージャー中心に全職員で随時行い、気づいたことはカンファレンスに持ち寄りプラン作成に繋げている。プランの見直しは3ヶ月に1回行われ、変化が見られれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践の様子を記録し、申し送りにて情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の老健の相談員や、理学療法士、栄養士等に意見をもらい、取り組んでいる。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、各家庭での行事に参加している。また散歩をしながら近所の公園、田畑などで地域住民との会議も楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携をとり、訪問診療、24時間対応をしているが、本人や家族の希望ある時は、主治医に紹介状を書いてもらい、通院にも付き添っている。	法人の医療機関と24時間対応の医療連携が取られている。現状、全利用者が法人のクリニックの月2回の往診で対応している。合わせて訪問看護師が週1回来訪し、利用者の健康管理を行っている。薬についても二人の職員が2回確認し間違いのないよう進めている。歯科については必要に応じ協力歯科医に職員がお連れし、月1回、併設の介護老人保健施設の歯科衛生士の来訪もあり利用者の口腔ケアを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅管理指導をもとに、利用者の状態を把握し、クリニック、訪問看護、薬剤師と相談しながら受診を受けられる様、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護情報を提出し、経過はご家族、または病院のソーシャルワーカーより聞き、連携室と連絡をとり合い、退院後の支援について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、看取りの指針について説明している。重度化の状態によりその都度、ご家族と話し合いを行い、ホームで出来る事、出来ない事を説明し同意を頂いている。	看取り介護の指針があり利用契約時に説明し同意を頂いている。心身の機能が低下しその状況に到った時に改めて家族の意思を確認し、医師、ホーム職員で話し合いを重ね、医療行為を必要としない場合にホームとして出来る支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の老健の内部研修で学んでいる。またホーム独自でも、セクション会議の場で皆で学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上、防災訓練(日中、夜間)を想定し、実施している。また推進会議にも地域の消防団員の参加もあり、意見を頂いている。	年2回春と秋に防災訓練を実施している。うち1回は消防署員参加の下行い、消火器を使っての消火訓練、通報訓練も行っている。避難訓練では避難経路の確認と利用者の誘導の仕方や順番、特に2階の利用者の避難を優先的に考え、全員玄関までの避難を行っている。また、夜間想定訓練では緊急連絡網の確認も行っている。更に、市の防災管理者の研修会にも参加し、防災意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時は必ずノックをし、本人の了解を得てから入室している。介護に関わる対応時は、尊厳を守り、分かりやすく丁寧な言葉掛けをしている。	利用者個々についての守秘義務を守るよう内部で徹底している。排泄介助には特に気を遣い、人前では声掛けしないよう心掛けている。入室の際には「ノック」と「声掛け」を忘れないようにし、呼び方は苗字を「さん」付けでお呼びし同性の方は名前でお呼びしている。法人が開催する尊厳やプライバシーの研修会にも参加し、意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの声掛けを多くし、本人の思いや、望みを話しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や1日の流れはあるが、利用者の気持ちを優先した生活をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の声掛けをし、身だしなみが出来ている。訪問美容師により、本人の希望のヘアカットをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する事全て、出来る事を見極めて、職員と一緒にしている。季節により、おやきやおはぎ等々、職員と一緒に作っている。	自力で摂取できる方が多く、一部介助の方、全介助の方もおり、職員共々楽しい食事の時間を過ごし、全利用者が完食を目指している。献立は法人の栄養士が立てたものをアレンジして調理している。お手伝いは自分の役割として下準備から後片付まで出来ることを職員と共に行っている。春、秋のお彼岸には「おはぎ」、夏祭りには「ソーメン」、敬老会には「手作り料理」、クリスマスには「手作りケーキ」、正月には「おせち料理」等、行事食を楽しみ、年2回、回転寿司にも出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に基づいた、バランスの良い食事を提供出来ている。状態に応じた食形態の食事提供も出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受け、毎食後口腔ケアを行い、口腔内の状態、義歯の状態を把握し、清潔保持出来る様、支援している。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の利用者の様子や時間で、適切なトイレ誘導や声掛けで、失敗のない様努めている。	自立の方が半数弱おり布パンツを使用しており、一部介助の方も半数おりリハビリパンツとパット使用で、全介助の方がオムツ使用という状況である。健康チェック表を使いパターンを掴み、トイレにお連れするようにしている。起床時、10時のお茶の前、昼食前後、午後3時のお茶の前、夕食前、就寝前など、定時での声掛けもするようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表で個々の排便の有無を確認し、水分補給や体操をしている。また主治医に相談し、内服薬にて排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回で入浴日も決まっているが、希望があれば、他の階での入浴も可能となっている。歌を唄うなど入浴を楽しんでいる。	全利用者が介助が必要な状況である。職員二人が組み合わせを考えつつ広い浴室で2名の利用者を介助しており、ゆっくり、楽しんで入浴していただけるよう心掛け取り組んでいる。拒否の方もいるが、時間を変えたり会話の内容を変え、浴室にお連れし対応している。季節の「菖蒲湯」や「ゆず湯」、入浴剤を使用するなど、楽しい入浴に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に参加の声掛けをしているが、自由に休息はとってもらい、体調などに合わせて寝具の工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の説明書を確認し、体調管理をしている。体調不良や内服薬に変更があった時は、必ず申し送りや連絡ノートで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から聞いたり、感じ取ったりしながら楽しみ事を探って、満足感を得られる様、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出は、家族と相談しながら実現出来る様、努めている。ホームでは、天気の良い日には屋外へ出て、散歩や体操、歌を唄っている。年間で季節に合わせて、ドライブ等に出掛けている。	外出時、車イス使用の方が三分の一、歩行機や杖を使い歩行する方を含め自力歩行の方が半数強おり、天気の良い日には併設の介護老人保健施設まで散歩したり、近くのプチカフェでコーヒーやジュースを楽しんだり、また、玄関先で体操や歌を歌って楽しんでいる。更に、春は花見、秋は紅葉ドライブ、動物園の見学、温泉の足湯等にも出掛け、少人数に分かれ近くの運動公園のイルミネーション見学にも出掛けている。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっており、必要な時は本人と一緒に買い物に行き、希望があれば会計、支払いをしてもらっている。職員が購入してくれる事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話し合い、手紙や電話の取次ぎ等、希望に添った支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境に勤めている。室温、湿度に注意し、快適に過ごせる様、冷暖房にて調節している。季節に合った飾りつけをしたり、花を植えたりと、季節を感じてもらっている。	開設から18年目を迎えているが、共有スペースは整理整頓が行き届き、綺麗な中で生活している。一日の大半を過ごすホールには利用者の作品や行事の写真が数多く飾られ、活動の様子が見て取れる。空調はエアコンが設置されており快適な温度調整がなされている。そのような中、職員と共に笑顔で寛ぐ利用者がいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に工夫をしなくても、1人1人が思い思いに過ごし、会話などから笑い声も聞かれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の馴染みの物を、置いてもらっている。本人や家族と相談しながら工夫している。	各居室は陽あたりが良く、明るく感じられる。大きなクローゼットと洗面台が備え付けられ暮らし易い造りとなっている。居室には使い慣れた家具や衣装ケース、テレビ等が持ち込まれ、壁には家族の写真や自分の作品、職員から送られた誕生日のメッセージカード等が飾られ、思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者同士の出来る事、分かる事を思いやる気持ちを大切にし、安全な生活への支援に努めている。		